

2012.3月
会派 爽風
議会報告
第12号
〒379-0114 群馬県安中市野殿919
TEL/FAX 027-382-3341

<http://www5.wind.ne.jp/moteki-hideko/index.htm>

群馬県議会議員 ~県政をわかりやすく 身近なものに~ もてき ひでこ 茂木英子 議会報告



ごあいさつ

一雨ごとに春の気配を感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨年、日本は未曾有の大震災に見舞われ、現地では今なお、大変な生活が続いています。今回の震災を経験した私たちは改めて「災害への備え」を根本から見直すことが求められました。

津波により甚大な被害を被った岩手県釜石市で、当時学校にいた子どもたちが全員逃げて助かったことは「釜石の奇跡」として伝えられました。子どもたちは逃げる際、近くの保育園児や老人ホームのお年寄りの手を引いたり車椅子を押して逃げ、多くの命を救いました。災害から命を守るためにには、日頃からの家族の話し合いや地域のつながり、訓練などがとても大切であることを再認識させられました。今後の地域における防災のあり方を大きく変えることになり早急な見直しが求められています。

さて、私の議員活動として昨年、皆様からお寄せいただいた声の中から、「若者支援」について一般質問を行いました。次世代を担う若者たちがいきいきと活動できる社会は、子どもからお年寄りまでが安心して心豊かに暮らしていく街づくりにつながります。

今、若者を取り巻く環境は、経済状況の悪化による就職難やコミュニケーション能力の低下、ニートや引きこもりの増加等、大変厳しい状況にあります。また、進学や就職をしても人間関係がうまく作れず生きづらさを感じている若者が少なくありません。若者たちが元気に生活できるよう社会全体でサポートしていく体制作りが急務であると考えています。

私も震災後、2期目の任期を市民の皆様からいただき責任の重さを痛感しています。これから多くの方々のご意見を伺いながら活動してまいります。皆様のさらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

季節の変わり目ですので、お身体をご自愛の上お過ごしくださいますようお祈り申し上げます。

群馬県議会議員 茂木英子



「新潟県三条市教育委員会」子ども・若者支援の先進的な取り組みを視察



「ぐんま若者サポートステーション」
て若者たちがいろいろな相談に訪れます



肢体不自由児及び重症心身障がい児施設「群馬整肢療護園」と併設の県立二葉養護学校を視察



高崎えびす講「高校生販売甲子園」の審査員を務めました



群馬県と高崎市による共催「食育フェスタ in takasaki」は「食べるの大切さ」を市民参加で楽しく伝えるイベントです



「群馬大学医学部第一種感染症病棟」を視察



九州電力「八丁原地熱発電所」を視察
(日本には豊富な地熱があります)



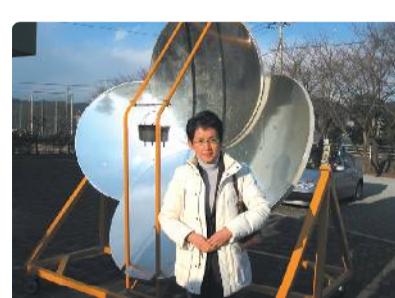
職業の適性など様々な
自己診断も手軽にできな
ります



重症心身障がい児施設
「はんまさわらび療育園」を
あべ議員と視察



不登校の子どもたちを個別に支
援する前橋市の取り組みを視察



「足利工業大学」で太陽熱利用について視察



「吾妻木質バイオ発電所」を視察

平成24年度予算編成に向けて会派要望書を知事に提出しました

24年度の群馬県の予算編成に向けた要望書は、私たちがこれまでに伺ってきた県民皆様の声や、若者の就労支援、医療や福祉など様々な現場に携わる人たちの意見を基に練り上げ作成しました。主なものは、放射能汚染への対策、災害への備え、子ども・若者支援の強化や、障がい者医療体制の充実、雇用や地域経済の振興対策など15分野92項目です。新年度も皆様から寄せられたご意見を基に活動していきます。



平成23年度 11月定例議会 一般質問

(紙面の都合上、内容を簡略化し、
掲載させていただきました。)



群馬の若者を支援する取り組みについて

● 小児期を越えた重症心身障がい者等の支援について

質問 小児医療センターにおけるキャリーオーバー患者の現状はどうか。その対応はどのようにになっているか。

答弁 小児医療センターでは、長期に渡る治療が必要で20歳を超える方々も増えている。昨年度の実入院患者数1,377人、そのうち20歳を超える方は22名(1.6%)。また、外来患者でも実患者数7,301名に対して20歳を超える方は377名(約4.6%)となっている。キャリーオーバーの患者さんの受け入れにあたり、成人特有の疾患の対応や診療報酬面等いろいろ課題があり充分に受け入れることができないことがある。今後とも地域の医療機関や関係者の皆さんの理解もいただきながら重症心身障害児を含む多くの子どもさんの在宅療養も円滑に行えるように、患者家族の皆さんの方も積極的に耳を傾けて前向きに取り組んでいきたい。

質問 関係者を集めて体制づくりに向けての協議会設置が必要と思うが、どうか。

答弁 現在、県では障がい政策課の職員を含めて、医療関係者、障がいを持っている方々の団体との意見交換も積極的に行っている。検討会議を置くことも含め、関係者とも積極的に関わっていきたい。

要望 24時間サポートが必要なお子さんを持つご家族にとって、何よりも日々安心して過ごせることが一番の望みである。キャリーオーバーの患者さんが医療を受けられる体制をしっかりと作っていくために、部長の取り組みを期待する。

一般質問のようすがインターネット中継でご覧いただけます。群馬県ホームページから県議会へ進み、議会中継をご覧ください。



● ジョブカフェぐんまの取り組みについて

質問 若者就職支援センタージョブカフェぐんまの活動の現状はどうか。

答弁 平成16年の4月に県で3箇所開所して以来、本年11月末までの累計で延べ来所者数は132,760人、登録者数は24,389人、カウンセリング件数は99,287件。カウンセリングについては、4月からカウンセラーを1名増員し、相談体制を強化している。ジョブカフェぐんまでは独自の求人開拓も行っており、この結果、就職の決定数は、本年11月末の累計で8,527人となっている。

質問 発達上の課題やうつ症状等メンタル面の問題を抱えている相談者への対応は、どのように行っているか。

答弁 今年度は専門家である臨床心理士を週1回程度配置した。カウンセラーに対する指導、助言で10月末までの対応実績は151件となっている。これにより、様々な課題を抱える利用者に対しカウンセラーがより適切な対応が行えるようになった。継続的な支援が必要な利用者に対しては、群馬県発達障がい者支援センター・医療機関等についての助言をしており、今後これらの専門機関としっかりと連携していきたい。

要望 北毛サテライトが県民局に入った関係で終了時間が早くなってしまった。財政状況が厳しい中ではあるが、この事業を今後もより増強、展開していただきたい。

委員会での質問（下記の通り委員会で質問を行いました。）

9月議会

- ・ポリオワクチン予防接種の状況について
- ・DV被害者の支援体制について
- ・思いやり駐車場制度の現状について
- ・里親訪問支援員の活動状況について
- ・群馬県犯罪被害者基本計画の策定について
- ・特定非営利活動法人促進法及び県施行条例改正について
- ・配偶者暴力相談支援センターについて
- ・県立病院における患者への接遇について
- ・県立病院における災害時の対応の見直しについて

11月議会

- ・女性相談センターの相談体制について
- ・歴史博物館の資料の維持管理について
- ・近代美術館のエルミタージュ展中止について
- ・携帯電話のフィルタリング推進について
- ・男性の育児参加の推進について
- ・『ぐんま食育こころプラン』の取り組みについて
- ・食品表示ウォッチャーを活用した安全、安心の取り組みについて
- ・自立援助ホームの現状について
- ・前橋赤十字病院の移転先選定に関する基本的な考え方について

9月議会

- ・「緑のカーテン」の取り組みと成果について
- ・小水力発電の現状と普及啓発について
- ・新エネルギーを活用する為の送電網について

